



富山県舟橋村での系統用蓄電池事業への参入について ～電力需給安定化と再生可能エネルギー導入拡大に貢献～

2026年4月23日

北陸電力株式会社

みずほリース株式会社

エムエル・パワー株式会社

北陸電力株式会社（以下「北陸電力」）およびみずほリース株式会社（以下「みずほリース」）の100%子会社であるエムエル・パワー株式会社（以下「エムエル・パワー」）は、「舟橋蓄電所合同会社」を設立し、富山県中新川郡舟橋村における2027年4月の蓄電所運開を目指し、系統用蓄電池事業に参入しますので、お知らせいたします。

近年、カーボンニュートラルの実現に向けた再生可能エネルギーの導入拡大が進む中、天候などにより変動する発電量に対する調整力の確保や、電力需要が少ない時間帯における再生可能エネルギーの有効活用が社会課題となっています。

本事業では、こうした課題を解決するため、蓄電池を電力系統に接続し、電力市場での取引を通じて、電力の余剰時には充電し、不足時には放電することで、需給バランスの調整や出力の平準化を図り、また再生可能エネルギーの有効活用に取り組んでまいります。

本事業は北陸電力グループ初の取組みであり、今後グループ一体となり、蓄電所の建設・保守および電力事業で培った需給予測の知見を活かした運用方針の策定など、蓄電所運営の全体マネジメントを担います。

北陸電力グループでは、本事業で得られる運営データとノウハウを活用し、お客さまに蓄電池をはじめとするエネルギーを有効活用する設備の構築・保守に加え、需要家設備全体を制御し、最適に運用することで電気を最大限有効活用するアグリゲーションサービスをワンストップで提供することを目指してまいります。

みずほリースは、社会的課題を解決する「マルチソリューション・プラット・フォーマー」を目指し、脱炭素社会の実現に向けたエネルギー関連事業を積極的に推進しております。エムエル・パワーは、これまで複数の系統用蓄電事業を実施してきた実績を踏まえ、本事業において、案件組成から開発業務に至る事業全体のプロジェクトマネジメントを担います。みずほリースおよびエムエル・パワーは、今後も再エネおよび蓄電池関連事業への取り組みを加速させ、持続可能な社会の実現を目指してまいります。

三社は、引き続き、電力の安定供給を図り、カーボンニュートラル社会の実現に貢献する取り組みを進めてまいります。

<蓄電所の概要>

名称	舟橋蓄電所
運用開始（予定）	2027年4月
設置場所	富山県中新川郡舟橋村
出力/容量	出力：1.99MW、容量：8.01MWh
蓄電池種類	リチウムイオン蓄電池
EPC事業者	北陸電気工事株式会社（北陸電力グループ）
設備保安管理者	北電テクノサービス株式会社（同上）
蓄電池運用者（予定）	北陸電力ビズ・エナジーソリューション株式会社（同上）



完成イメージ図

<舟橋蓄電所合同会社の概要>

設立	2025年12月12日
代表社員	北陸電力株式会社、エムエル・パワー株式会社
出資比率	北陸電力株式会社 50%、エムエル・パワー株式会社 50%
役割	舟橋蓄電所の運営

以上